



↑大舞台での逆境をはねのけて全国制覇を達成した「御船A Withボチ」(御船高提供)

王者は苦しみ抜いて手にした日本一だった。第19回全国高等学校ロボット競技大会は12月16日と17日、鹿児島県総合体育センターで開幕。県代表の御船高校(小林博校長、700人)が3年連続7回目の全国制覇を果たした。

高度なマシン設計と操作技術を競う大会は、ロボットの甲子園と呼ばれ、地域を勝ち抜いた強豪校138チームが出場した。競技は開催地にあやかり、与論島や種子島など4つのエリアを用意。サトウキビやサツマイモに見たてたアイテムの収集と収納を繰り返し、ロケットのペットボトルを宇宙ステーションの網へ飛ばして、制限時間3分以内での得点を競い合った。

御船高は、「御船A Withボチ」と「御船B Withタマ」が出場。予選から決勝までを戦い、御船Aが優勝、御船Bが9位に食い込んだ。

御船Aで操縦担当の米里瞭汰君(熊本市)は、「決勝は練習で一番いい状態を思い出して集中しました」と振り返る。予選16位、準決勝5位と、本来の調子からは程遠かった。しかし最後の大会で勝負強さを発揮。パーフェクトゲームで優勝をたぐい寄せた。

御船Bで操縦担当の清水龍成君(滝尾)は、「自分の精神面の弱さ、集中力が足りなかった結果。また一から初心に戻って、4連覇を目指して頑張ります」と唇を噛みしめ、次に気持ちを切り替えた。

マイコン制御部長の藤田溪太郎君(熊本市)は、「県大会は球磨工高に負けて、11連覇を止められていました。辛いことも多かったけれど、優勝で報われました」と伝統校の意地と誇りを語る。そして御船中の後輩たちへ「練習してきたことを出せるように、悔いが残らないように、優勝を目指して、精一杯頑張ってください」とエールを送っていた。



右から、「トップスピード」の杉原一成君(3年・ナビゲーター)、瀧上斗誠君(2年・オペレーター)、増田拓海君(同・メカニック)。「Ling」の井芹伶斗君(1年・ナビゲーター)、塚本智也君(同・オペレーター)、増田清徳君(同・メカニック)

Proud Mifune

04

逆境を乗り越え 7 回目の日本一

全国高等学校ロボット競技大会

Proud Mifune

03

9 年連続 9 回目の全国舞台へ

創造アイデアロボコン九州地区中学生大会



3年連続7回目の全国制覇を成し遂げたマイコン制御部ロボット班

全国の扉をこじ開けた。第13回創造アイデアロボットコンテスト九州地区中学生大会は12月10日と11日、鹿児島県樟南高校で開催。県代表の御船中学校(加藤敬之校長、471人)は2部門で準優勝と3位に輝き、9年連続9回目となる全国大会への切符を手にした。

大会には、九州沖縄代表120チームが出場。競技は▽ごみ回収掃除ロボットでタイムを競う授業内部部門▽ボールを回収して所定の場所へと並べ得点を競う応用部門▽操縦型ロボットで自走型ロボットとアイテムを運び得点を競う九州オリジナル部門など、予選リンクと決勝トーナメントで対戦した。

御船中は3部門に6チームが出場。応用部門で「トップスピード」が準優勝に、授業内部部門で「Ling」が3位入賞を果たした。

トップスピード主将の杉原一成君は、「決勝戦はマシントラブルで焦りができました。全国大会にはロボットを改良して、タイムを縮めます。目標は全国制覇です」と集大成の舞台で雪辱に燃える。



←応用部門で杉原君を中心に冷静な試合運びで準優勝に輝いた「トップスピード」



→授業内部部門で1年生トリオが3位入賞した「Ling」(御船中提供)

Ling主将の井芹伶斗君は、「ロボットの調子が悪くて力が出せませんでした。もつと練習して、全国大会はベスト8を目標に臨みます」と悔しさをばねに躍進を誓う。

技術・ものづくり部長の真田瑞生君は、「歴代の先輩たちが築き上げた記録を途絶えさせないように頑張りました。技道の心得を胸に全国大会へ挑みます」と頼もしい笑みを浮かべた。

全国大会は1月21日と22日、東京都銀座中学校で開かれる。郷土が誇るロボコン戦士が、3年ぶり4度目の頂点を目指して完全燃焼する。